

風土記の丘公園

100 を超える古墳が、この 29 ヘクタールの公園に保存されており、大阪府では最も古墳が密集した場所だ。近つ飛鳥博物館はこの公園に 1994 年に建てられ、西日本のこの地域に点在する古墳の歴史や築造について展示している。

古墳は 3 世紀中ごろから 7 世紀後半まで築造された。最大級の古墳には昔の天皇や皇族が眠ると言われているが、この公園にあるような規模の小さいものは、皇族の中でもあまり重要でない人物が埋められたようだ。多くの古墳は 6 世紀以降のもので、古墳には内側の埋葬施設へと続く廊下状の入り口があり、亡くなった人を後からそこへ葬るために再度開けられるようにしていたと考えられる。公園内の約 40 の古墳は見学ができる。内部の石室が雨風にさらされているものもある。この独特の場所に足を踏み入れることができ、日本史を間近に探索できる滅多にないチャンスだ。

これらの古墳は現在は空だが、近つ飛鳥博物館では、中に何が埋もれていたか、古墳がどのように作られたかを展示している。展示されている人工遺物には、日本中の古墳から発見された儀式に使われた銅鏡、埴輪、金銅製の馬具などがある。

公園はバードウォッチングに最適だ。キジや、ホトトギスや、モズ、コゲラなどが観察できる。春には人々は満開となる梅や桜の木々を楽しみに訪れ、秋の紅葉も人気がある。